

リチウムイオン電池搭載製品の火災にご注意を！！



当消防本部管内における火災発生件数は、昨年同時期に比べ約2倍の11件となっております。消防本部ホームページで「夏場の火災」での注意喚起を掲載しておりますが、当消防本部管内でリチウムイオン電池搭載製品の火災が続けて発生しております。夏は気温が高くなることで、身近な製品がいつもより熱を持ちやすくなります。モバイルバッテリーやスマートフォン、電動アシスト自転車など、繰り返し充電して使える「リチウムイオン電池搭載製品」では、夏場に事故が増加する傾向が見られます。リチウムイオン電池には可燃性の電解液が含まれているため、大きな火災事故につながるおそれもあります。市民の皆様にはリチウムイオン電池を使用している製品の使用方法などいま一度確認していただき、火災予防に心がけてください。

【「リチウムイオン電池搭載製品」の火災事故を防ぐポイント】

○正しく購入する

- ・連絡先が確かなメーカーや販売店から購入する。
⇒不具合や事故発生後に事業者からの補償を受けられない、事業者と連絡が取れないなどの事態が発生しています。販売元の情報を確認し、サポートが日本語に対応しているかどうか、連絡先（電話番号や住所）が実在するか確認しましょう。
- ・リコール対象ではないことを確認して購入し、購入後も常に最新の情報をチェックする。
⇒リコール対象の「リチウムイオン電池搭載製品」による事故が2020年から2024年までの5年間、全国で360件以上発生しています。お持ちの製品がリコール対象になっていないか今一度ご確認ください。
- ・安価な「非純正バッテリー」が抱えるリスクについて理解する。
⇒安価で入手しやすい「非純正バッテリー」で火災を伴う事故が多く発生しています。
 - ①設計に問題があり、異常発生時に安全保護装置が作動しない場合がある。
 - ②品質管理が不十分で、通常の使用であっても事故に至る場合がある。
 - ③事故が発生した際に、事業者の対応や保証を受けられない場合がある。
 - ④安価である分、安全のためのコストが削られている場合がありますので、安価な非純正バッテリーには“高リスク”のものが潜んでいることを理解しましょう。

○正しく使用する

- ・車内など高温下に放置するなどして熱を与えない。
⇒リチウムイオン電池は、高温環境下では熱の影響で異常な反応が起きて発熱・破裂・発火するおそれがあります。
- ・強い衝撃を与えない。
⇒リチウムイオン電池は外部からの衝撃が加わると内部に傷が付くことで内部ショートが生じ、発煙や発火につながります。また、膨張を元に戻そうとして強い力が加わったことで異常発熱して出火した事故も発生しています。地面に落としたり無理な力を加えたりしないようにしてください。

○正しく対処する

- ・充電・使用時は時々様子を見て、異常を感じたらすぐに充電・使用を中止する。
- ・万が一発火した場合は大量の水で消火し、可能な限り水没させた状態で、119番通報する。

